

言葉を吟味し、読みを深める児童の育成

——音読を起点とした読み取りの交流活動を通して——

特別研修員 国語 鈴木智子(小学校教諭)

児童の実態

- 自分の解釈を、叙述を根拠に説明するのが難しい。
- 教材文から読み取った自分なりの読み方に固執してしまい、友達の考えを受け入れられないことがある。

教師の願い

- 叙述から読み取ったことや、考えたことを伝え合い、聞き合うことで、より具体的に文章を読み取れるようになってほしい。

実践事例

単元名:登場人物の様子をくわしく想像し、音読劇をしよう
教材名:「お手紙」(光村図書2年)

個

手立て1: 解釈を意識化するための音読の場の設定



「ああ」の部分を音読してみましょう。どんな音読になりますか?



どうやって読もうかな。
…うれしそうに読んでみよう。



どうしてうれしそうに読んだかというと…
(根拠に赤線を引く)

みんなはどんなふう
に読んだのかな。

グループ

手立て2: 叙述を基に考えを伝え合う交流活動の設定

交流の手順と話型を提示



どのように「ああ」を音読しましたか?

私も似ていて、同じところから、感動しているように読んだよ。

私は、「とてもいいお手紙だ」というところから、うれしそうに読んだよ。



「うれしい」と「感動」って、どう違うのかな? 感動したってどういうこと?

【交流パワーアップ作戦】

- 教科書を見せ合いながら交流しよう。
- 友達の考えを聞いたら、**交流パワーアップアイテム**(交流で大事な言葉)を使おう。
- みんなで悩んだら、**もう一度教科書**を見よう。
- 友達の考えと自分の考えを比べよう。
- 例えや身振り**を入れて考えを伝えよう。

どうして? どこから? なるほど! にてる! もう一回!

全体



S1: いいお手紙をくれてありがとうって思うから、ありがたい気持ちで読みました。
S2: かえるくんからお手紙の中身を聞いて、がまくんが「とてもいいお手紙だ」と言ったから、幸せな気持ちで読みました。
T: いろいろな読み方があったけれど、「とてもいいお手紙だ」を基に考えた人が多かったね。

グループ



どうして、がまくんは「とてもいいお手紙だ」と言ったのでしょうか?

心が温まる手紙だよ。

だから感動したのかな?

「親愛なる」とか「親友」っていう言葉があったらだと思う。ほくも友達に親友って言われたらうれしいから。

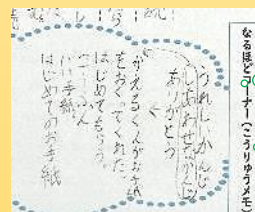


お手紙をもらったことがなくて悲しんでいたけど、もらえるって分かったから喜んだっていうことじゃない?

全体



T: 「親愛なる」とは、どんな意味ですか?
S3: すごく仲良しってことかな。
S4: 大好きってことだと思う。
S5: とても大切だよってことじゃないかな。
S6: かえるくんががまくんのことを大切に思っている気持ちが伝わったんだと思う。



なるほどな…
いろいろな考えがあるんだな。

どんなふう
に読んだらいいかな。もう一度考えてみよう。

交流活動で得た気づきを生かして音読し、振り返る

最初はうれしそうな感じで読もうと思ったけど、交流したら、感動の気持ちやありがとうの気持ちもあると分かりました。「とてもいいお手紙だ」のところをよく考えてみたら、かえるくんが親友と言ってくれたのと、初めてお手紙がもらえることがうれしくて感動したのだから、その気持ちが伝わるように、小さい声で、やさしく読もうと思いました。

- 成果** ○登場人物になりきって音読することにより、自分なりの解釈を自分自身で意識化することができた。自分なりの考えをもてたため、その考えが叙述のどの部分から得られたものなのかも全員見付けることができ、その後の交流につながった。
- 交流の手順や話型を提示し、繰り返し活用することにより、交流が活発化し、停滞することなく話合いが進んでいた。また、「どうして?」など、根拠を問う質問ができたことで、交流の質が高まり、解釈の深まりにつながった。
- 課題** ●全体交流の中では、個々の考えを全体に広めることだけに留まらず、学級全体として読みを深めていけるように、問い返したり児童同士の考えをつなげたりする必要がある。